

全4幕抜粋 イタリア語公演

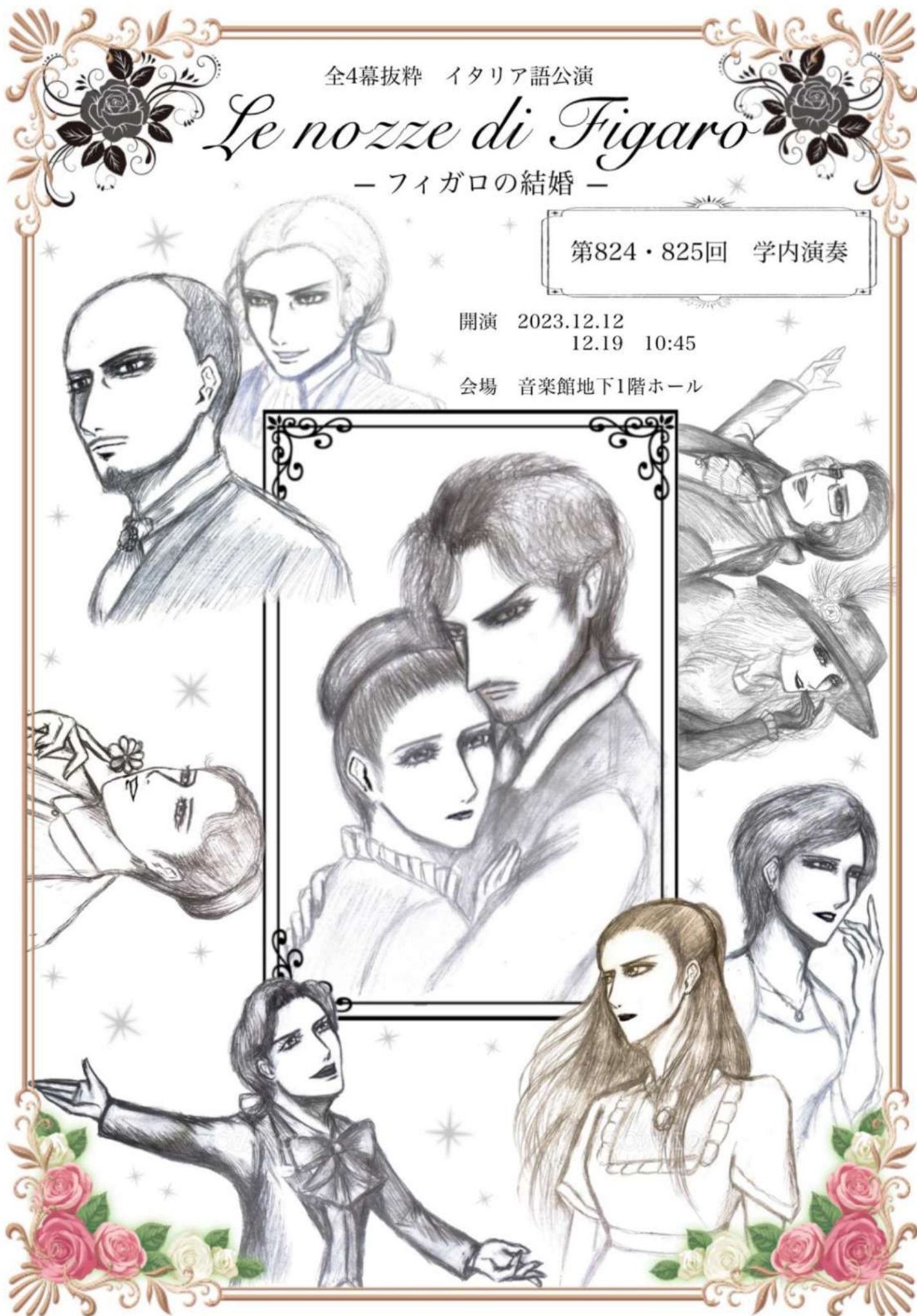
# *Le nozze di Figaro*

— フィガロの結婚 —

第824・825回 学内演奏

開演 2023.12.12  
12.19 10:45

会場 音楽館地下1階ホール



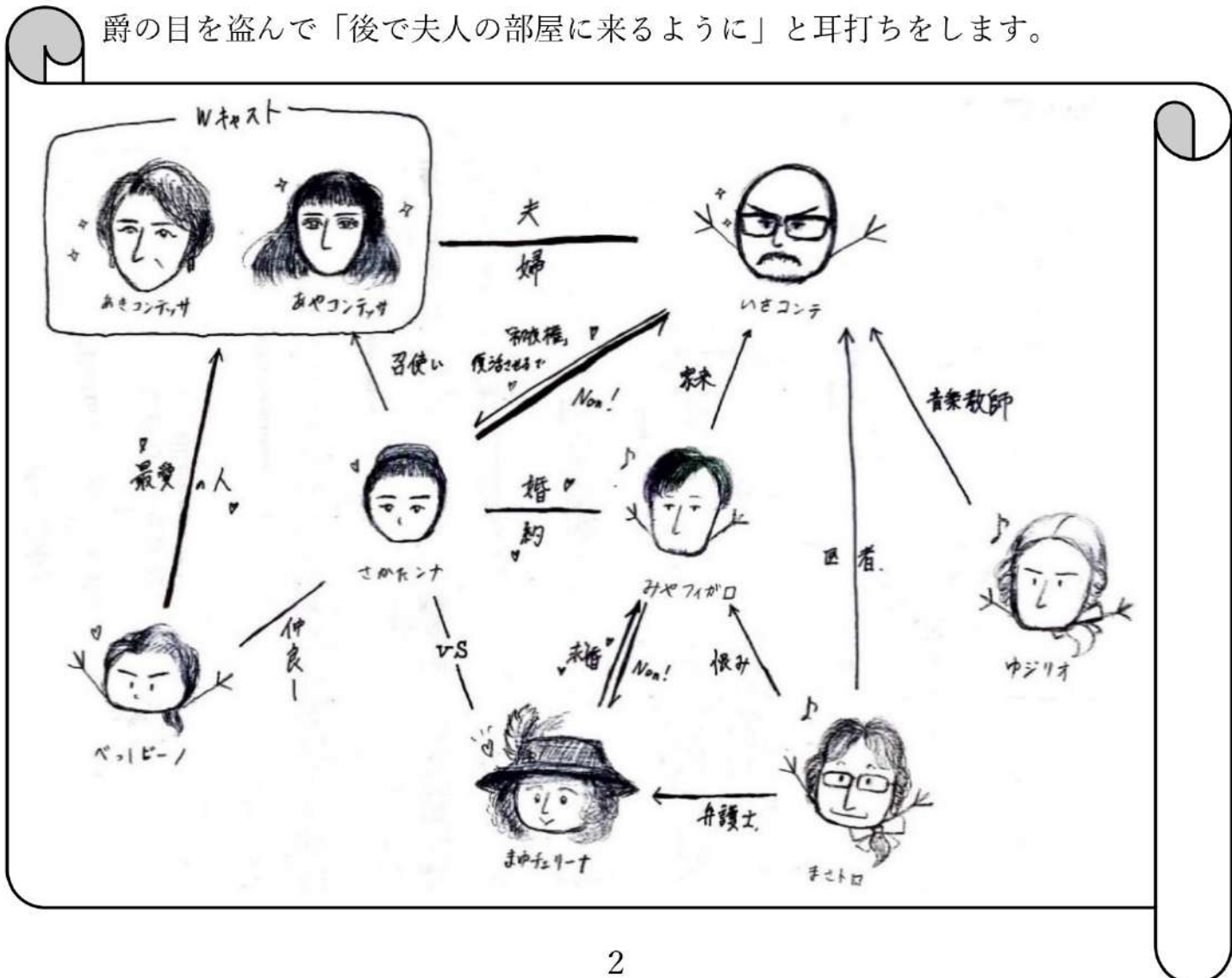


# 第1幕 伯爵から与えられた部屋

時は18世紀、舞台はスペイン、セヴィリヤのアルマヴィーヴァ伯爵の館。伯爵の従者フィガロと、同じく伯爵家の女中スザンナの結婚式当日の話です。

フィガロは伯爵に与えられた部屋で、ベッドを置く床の寸法を測っています。しかし、伯爵はスザンナを狙い、かつて存在した「初夜権」を復活させようと企んでいます。その企みをスザンナの口から聞いたフィガロは伯爵への闘争心を燃やしますが、女中頭のマルチェリーナは借金のかたにフィガロに結婚を迫ります。

伯爵夫人に恋する小姓ケルビーノがスザンナを訪ねてきます。彼は昨日、スザンナの姪っ子にあたるバルバリーナと戯れていた所を伯爵に見つかり、暇を出されてしまい、伯爵夫人に取り成して貰えないかと相談に来ました。また間の悪いことに、伯爵と音楽教師のバジリオが現れます。ケルビーノは急いで椅子に隠れますが、再び伯爵に見つかってしまい軍隊行きを命じられます。哀れに思ったフィガロは、伯爵の目を盗んで「後で夫人の部屋に来るように」と耳打ちをします。





## 第2幕 伯爵夫人の部屋

---

伯爵夫人は夫の愛が冷めていることを悲しんでいます。フィガロとスザンナは夫人と共に伯爵を懲らしめる為の作戦を立てます。その作戦とは、ケルビーノに女装をさせて伯爵の元へ送り、その逢引きの現場を夫人が押さえ、伯爵にお灸をすえると言うもの。

しかしその準備をしている最中に、差出人が分からない手紙を受け取った伯爵が狩りから急いで帰って来ます。動揺したケルビーノは衣裳部屋に隠れ鍵をかけてしまいます。夫人は神のご加護を祈り、伯爵を部屋の中に入れます。伯爵は夫人の様子がいつもと違うことや、衣裳部屋から聞こえた物音に、男がいることを疑い、夫人を連れて鍵を開ける道具を取りに行きます。

その間にスザンナが衣裳部屋に隠れているケルビーノを呼び出し、彼は窓から外に飛び降ります。戻って来た伯爵は、衣裳部屋の中に隠れているのがケルビーノだと分かり、激怒する勢いのまま扉の方に向かうと扉が開き、そこからスザンナが出てきた為、伯爵も夫人も大変驚きます。伯爵は浮気を疑ったことを夫人に謝ります。

フィガロたちは上手くやり過ごす事が出来たと安堵していると、マルチェリーナがバジリオとドン・バルトロを連れて伯爵の元へやって来て、証文を使ってフィガロに結婚を迫り大混乱の中で2幕の幕が閉じます。

## 第3幕 結婚式の準備が進む大広間

---

予期せぬことが次々と起き、悩む伯爵の姿を遠くから見つめている伯爵夫人とスザンナ。夫人はスザンナに、逢引きの約束を取り付けて来るよう指示し、スザンナを大広間に残し出て行きます。残されたスザンナは、伯爵の前に姿を現し、逢引きの約束を取り付けます。

一方、なかなか戻ってこないスザンナを心配した伯爵夫人は再び大広間にやって来ます。誰もいない部屋の中で夫人は伯爵との楽しかった頃を思い出して悲しい気持ちに襲われるが、いかなる仕打ちを受けようとも伯爵を愛し続けると強い意思を示します。



### 第3幕 大広間

裁判でマルチェリーナの契約書が認められ、フィガロは「マルチェリーナに借金を返すか、彼女と結婚するか」の窮地に立たされます。しかし事態は一転、フィガロが幼い頃にさらわれたバルトロとマルチェリーナの実の息子と判明し裁判は不成立となり、フィガロ達は歓喜します。

一方、伯爵夫人はスザンナに伯爵に宛て手紙を書かせ、逢引きの場所と、封に使用したピンを承諾のしるしに返すように記します。今回は夫人自らが、スザンナと衣装を取り替え乗り込む計画です。

そこへ夫人に花を届けようと、バルバリーナと村娘の姿をしたケルビーノがやってきます。夫人たちは彼と気づいていないフリをして楽しんでいますが、そこに入隊を命じたはずのケルビーノがまだ屋敷の中をうろついている事を知った伯爵がやって来て、彼を見つけます。伯爵は怒りますが、バルバリーナがすかさず機転を利かし、これまでずっと伯爵に言い寄られている事を持ち出し、ケルビーノは難を逃れます。

風向きが悪くなった伯爵は、渋々フィガロたちの結婚を認めます。そこで計画通りスザンナは、結婚式の途中で密かに手紙を伯爵に渡します。フィガロは浮かれる伯爵の様子から、誰かは分からないが女性から恋文をもらったと察知します。上機嫌になった伯爵は、更に盛大な祝宴を催すことを一同に約束します。

### 第4幕 第1場：庭に通ずる小道

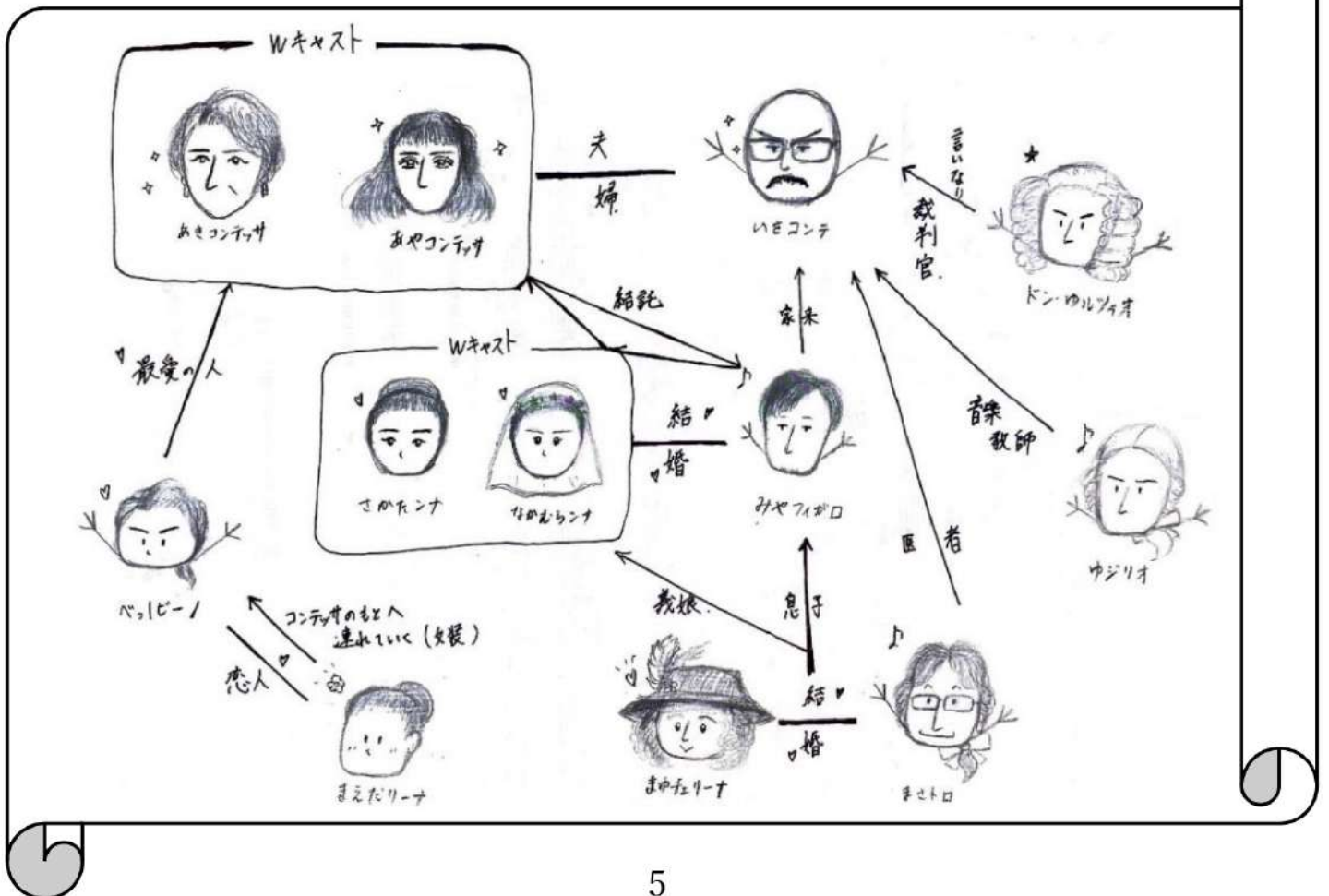
大広間ではまだ結婚式の宴が続いていますが、伯爵から預かったピンを失くしてしまったバルバリーナが半泣きで探しています。そこにフィガロとマルチェリーナ親子が酔いを醒ましにやって来ます。バルバリーナのピン探しにつき合っている中で、逢引きの相手がスザンナだと知ったフィガロは母親の言葉も耳に入らないほど激昂し、世の夫の立場から女性への復讐を誓って暗闇の中へ駆けだして行きます。

一人残ったマルチェリーナは、あのスザンナがフィガロを裏切るはずがないと彼女を深く信じ、反対に男性の身勝手さを訴えます。そして急いで夫人とスザンナの元へ報告に行くのでした。

第4幕 第2場：城内の庭

伯爵夫人とスザンナは衣装を取り替え伯爵を懲らしめる時を待ちますが、スザンナは木々の陰に隠れているフィガロを少し懲らしめようと、逢引きの喜びを語るという一芝居を打ちます。ショックを受け怒りに打ち震えるフィガロは陰から飛び出しますが、そこにケルビーノが現れスザンナの姿をした伯爵夫人にちょっかいを出します。困っている夫人の元に伯爵がやって来て、邪魔ものを排除します。二人きりになったと思いついて伯爵はスザンナ姿の夫人を口説きますが、人の気配に驚き彼女を先に行かせます。そして、スザンナの不実を怒るフィガロが、夫人の姿をしているスザンナに気づき、彼女を少し懲らしめようと愛を語ります。裏切られたと涙するスザンナにフィガロは優しく「君の声で全て分かっていたよ」と言葉をかけ仲直り。

二人は、戻って来た伯爵に不貞の現場を見せつけます。激昂した伯爵はフィガロを捕まえ、東屋からケルビーノ、バルバリーナ、マルチェリーナ、伯爵夫人に扮したスザンナを引っ張り出します。皆で伯爵に許しを乞いますが、伯爵は許しません。そこへスザンナに扮した伯爵夫人が現れ、すべてを理解した伯爵は、夫人に跪き、これまでの不実な行いの許しを乞います。夫人は全てを許し、一同、幸福感に包まれた中で幕を下ろします。



## スタッフ

- |       |            |       |        |
|-------|------------|-------|--------|
| ・指揮   | 藤村 匡人      | ・ピアノ  | 藤江 圭子  |
| ・演出   | 唐谷 裕子      | ・伴奏助手 | 齋藤 優衣  |
| ・舞台監督 | 西川 まゆみ     |       | 鈴木 ゆき子 |
| ・照明   | 澤井 敦治 (客演) |       | 多田 美晴  |
| ・音楽指導 | 福原 寿美枝     |       |        |

## キャスト

- |              |            |       |  |
|--------------|------------|-------|--|
| ・コンテ         |            |       |  |
| (アルマヴィーヴァ伯爵) | 福嶋 勲 (教員)  |       |  |
| ・コンテッサ       |            |       |  |
| (ロジーナ伯爵夫人)   | 中村 采子      | 濱 明子  |  |
| ・フィガロ        | 宮尾 和真 (客演) |       |  |
| ・スザンナ        | 坂田 佳奈英     | 中村 早紀 |  |
| ・ケルビーノ       | 別所 茉耶      |       |  |
| ・マルチェリーナ     | 柳 直友子      |       |  |
| ・バルトロ        | 藤村 匡人 (教員) |       |  |
| ・バジリオ        | 矢野 勇志 (客演) |       |  |
| ・ドン・クルツィオ    | 矢野 勇志 (客演) |       |  |
| ・バルバリーナ      | 前田 早智子     |       |  |

## お手伝い

- |             |              |            |
|-------------|--------------|------------|
| 〈照明助手〉      | 〈字幕操作〉       | 〈字幕作成〉     |
| ・横井 青空 (3年) | ・松本 奈々実 (3年) | ・オペラ履修生    |
|             | ・平群 若菜 (2年)  |            |
| 〈舞台転換〉      |              |            |
|             | 清水 若葉 (3年)   | 高橋 芽紅 (3年) |
| 新居 明果 (2年)  | 椎葉 七香 (2年)   | 村上 瑞月 (2年) |
|             | 濱田 咲来 (1年)   | 藤原 愛梨 (1年) |

